

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究 実施方法等

### 1. 実践校について

実践校名	(よこはましりつこうがやしょうがっこう) 横浜市立幸ヶ谷小学校		
学科名	児童数	学級数	
/	726	24	

### 2. 実践研究の対象

- 全校 (ESD 推進のため全クラスで重点研究に取り組んだ)
- 6年1組 37名  
(「未来の幸ヶ谷を考える」プロジェクト～6-1 サステイナブルマップ～)

### 3. 実践研究の実施経過

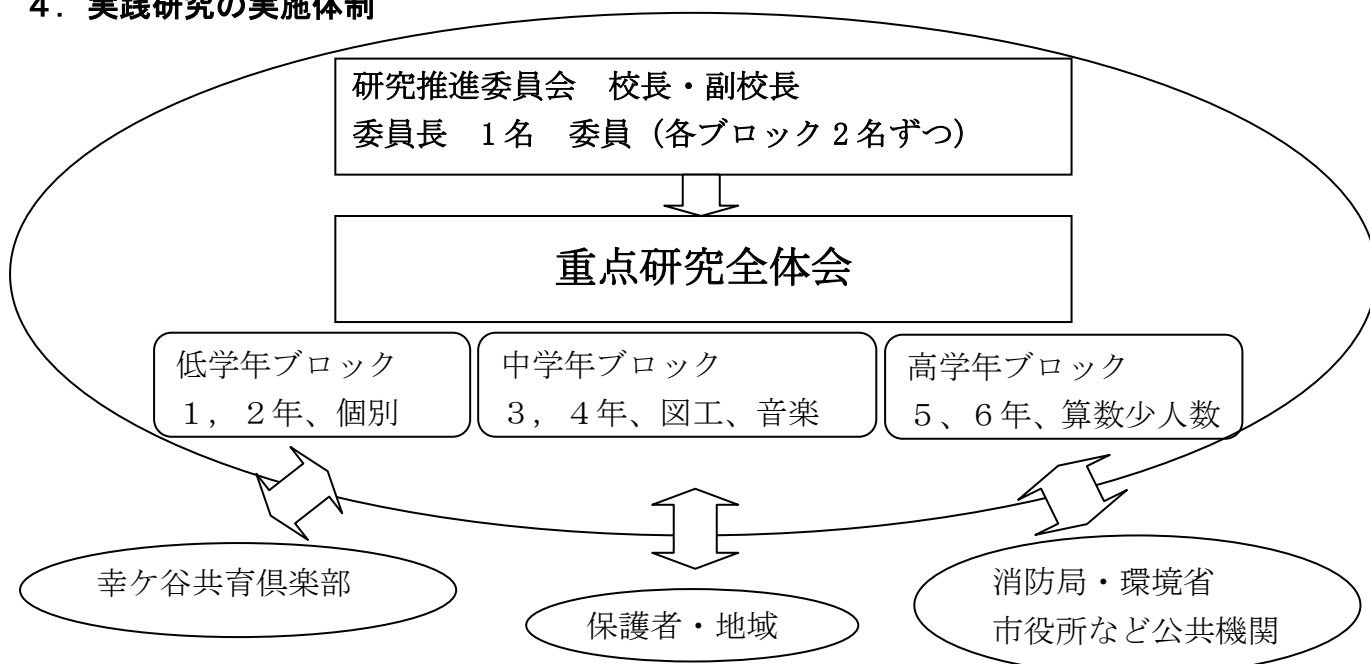
- 4月 【推進委員会】研究の方向性について意見交換をして、見通しを共有。  
【職員研修】地域理解及び材の開発のための学区巡りを実施。  
【全体会】研究に対する意見交換。全員がフラットな立場で研究やESDについて語り合った。
- 5月 【単元構想検討会】ブロックごとに単元構想を練り、年間の学習の見通しをもつ。
- 6月 【単元構想図作成】単元構想図の書式に沿って単元の流れを考えた。  
【指導案検討会①】第1回授業研究会に向けて指導案の検討を全教員で行った。  
【指導案検討会②】第2回授業研究会に向けて指導案をブロックごとに検討。  
【授業研①】2年、4年、5年、6年生の研究授業を実施。講師は住田昌治先生(永田台小校長)  
【推進委員会】授業研を振り返り第2回目の授業研に向けての課題や解決に向けての方策を共有した。
- 7月 【授業研②】1年、2年、3年、6年生の研究授業を実施。  
【検証日】授業研を振り返り、子どもの姿の変容等について検証を行った。共同研究者として佐藤真久先生(東京都市大学)、米原あき先生(東洋大学)
- 8月 【推進委員会】検証日の成果をもとに、3～5回の授業研究会の進め方の確認。
- 10月 【指導案検討会③】第3回授業研にむけてブロックで指導案検討。  
【授業研③】2、3、4年生の研究授業を実施。  
【推進委員会】今回は文書にて確認

- 【指導案検討④】 第4回授業研にむけてブロックで指導案検討。
- 11月 【指導案検討⑤】 第5回授業研にむけてブロックで指導案検討。  
 【授業研④】 1、4、5年生の研究授業を実施。  
 【推進委員会】 授業研④の振り返りと授業研⑤の確認。
- 12月 【発表会】 ステップアップフェスティバルにて保護者、地域、他学年の児童等  
 取り組みの成果などを発信した。  
 【授業研究会⑤】 個別、音、図、算の研究授業を実施。  
 【推進委員会】 これまでの授業研の振り返りとこれまでの研究全体の振り返り。
- 1月 【指導案検討⑥】 全体会として次の指導案の検討を行った。  
 【授業研究会⑥】 2、5年生の授業研
- 2月 【検証日②】 1年間の研修の成果を子どもの姿を通して検討する。  
 【推進委員会】 事前のアンケートや検証日の検討を受けて今年度の研修の成果と  
 課題をまとめた。来年度の取り組みについても検討した。  
 【全体会②】 今年度の成果と課題を出し合い、来年度の研究の方向性を共通理解

○ESD 推進のための主な取り組み（抜粋）

- 1年 生活科「あきとなかよし」【SDG s 16 陸の豊かさを守ろう】
- 2年 生活科「虫となかよし」【SDG s 16 陸の豊かさを守ろう】
- 3年「大好き！神奈川公園～3-1 チームワーク大作戦」  
 【SDG s 11 住み続けられるまちづくりを】
- 4年「未来へ 幸ヶ谷の海 すきすき大作戦」【SDG s 14 海の豊かさを守ろう】
- 5年「もやすのは心だけ！命を守れ！防災クラスター」  
 【SDG s 11 住み続けられるまちづくりを】  
 「健康第一！オリジナル体操でまちを元気にしよう PJ」  
 【SDG s 3 すべての人に健康と福祉を】
- 6年「国際平和について考えよう～自分たちにできること～」  
 【SDG s 16 平和と公正をすべての人に】

4. 実践研究の実施体制



## 5. 教育委員会等として取り組んだ内容

### (1) 学校担当指導主事を設定し、計画的に学校を訪問・指導、支援

各校それぞれに担当指導主事を配置し、年間を通して計画的に実践校を訪問した。授業や学校経営に関わる本事業の位置付け等を視察し、適宜指導や支援を行った。

### (2) 研究内容に関わる部分での指導助言

各校での授業研究会を訪問し、それぞれの主事の研究分野を生かして授業や研究内容について、指導助言を行った。

各実践校が取り組んだプログラムについては、2年間の実践研究が終わるので、今後の各学校のカリキュラム・マネジメントに生かすことができるよう、取組のまとめを共有できるようにしていく。(他校についても同様)

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：横浜市立幸ヶ谷小学校

### 概要

- 幸ヶ谷のまちの人とかかわり合いながらサステイナブルマップ作成に取り組むことで、持続可能な社会をつくる担い手として自分ができることややるべきことを考え、主体的に実行していく力を育む学習プログラムを開発する。

### 学習プログラムの目標

- サステイナブルマップについて関心をもち、幸ヶ谷小学校の児童や教職員、地域の人々との交流を通して、大切なものを未来に残していくことの価値に気付く。
- 持続可能な社会の担い手として、自分たちができることを主体的に実践しようと次のような心情や態度を育む。  
(未来を予測して計画を立てる力・多面的、総合的に考える力・他者と協力する態度・つながりを尊重する態度)

### 学習プログラムの主な内容

- ① 外部講師による講義と語る会の実施  
住田 昌治先生（横浜市立永田台小学校校長）、細谷 邦弘先生（永田台小学校教諭）、佐藤 真久先生（東京都市大学教授）をお招きし、パネルディスカッションを行いサステイナブルマップの見直しや作成することの意義などについて問題意識を明らかにする。地域の方とともに語る会を行い自分たちの想いも伝え合う。
- ② グループディスカッション  
グループごとに課題解決について話し合う。
- ③ ステップアップフェスティバルでの発表活動  
提言をまとめ、地域や保護者、全校児童に発表を行う。その際、地域関係者との意見交換を行い、反映させる。
- ④ 課題解決に向けた活動  
自分たちの取り組みをエコプロダクツ 2017 に参加し全国の参加者、企業等団体の方々と意見交換し、未来に向かっての展開を考える。

### 学習プログラムの成果の概要

- ステップアップフェスティバルやエコプロダクツ 2017 において、自分たちの ESD に関する取組をわかりやすく、説得力をもって発信できるよう、プレゼンテーションの内容を吟味し、自分の言葉として語ることで、聞く人の心に響く発表をする力が付いた。

- さらにグレードアップした「サステイナブルマップ」を作成するために、いろいろな立場の方々の話を聞くことや語り合うことで、自分の考えをさらに磨き、視野を広げながら未来につながるマップ作りにつなげられた。
- 多くの人々とかかわるなかで、いろいろな切り口で刺激を受け、常に問題意識をもちながら、学習を進めることで、主体的に問題を解決しようとする姿勢が見られた。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究 実施方法等

### 1. 実践校について

実践校名	横浜市立戸部学校（よこはましりつとべしょうがっこう）		
	学科名	児童数	学級数
		350名	14学級

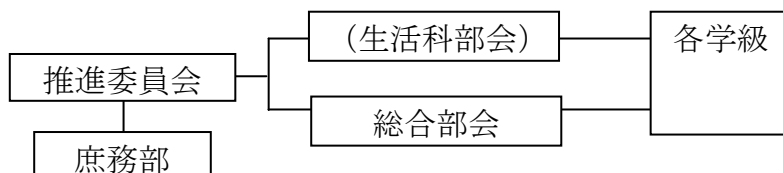
### 2. 実践研究の対象

第3学年～第6学年 8学級 225名

### 3. 実践研究の実施経過

- 4月～6月 …学習プログラムについての研修会・授業研究会①（全学級）
- 7月～8月 …実践の進捗状況の確認・部会検討をもとにした単元の修正
- 10月 …授業研究会②（全学級）
- 11月 …研究発表会
- 1月～3月 …研究のまとめ

### 4. 実践研究の実施体制



- 推進委員会…研究計画の立案・内容理解研修・各部会のとりまとめ。
- 庶務部…HP等による情報発信・環境整備・各種資料保存
- 各部会（生活科・総合）…各学級の実践の検討。教材研究・交渉への協力。
- 各学級…子どもの興味・関心に沿った単元構想・授業づくり

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：横浜市立戸部小学校

## 概要

- 「地域の人々の笑顔」の実現に向けて、学級ごとに学習対象を選定し、地域とのかかわりながら追究の質を高めていくような学習活動を通して、主体的な問題解決及び協働的な資質・能力を身に付け、考え方・生き方を構築する学習プログラムを開発する。

## 学習プログラムの目標

- ① 学級ごとに「地域の人々を笑顔にする」というテーマに沿って学習対象を選定し、年間の活動の目的を把握し、見通しをもつ。
- ② 選んだ学習対象について、体験的な情報収集やその道に造詣の深い方との関わりを通して理解を深める。
- ③ 選んだ学習対象について方法を工夫して発信したり、交流したりして地域の方とかわる。
- ④ ③で得た反応等の情報から分析的に成果・課題を判断し、探究的に活動の質を高めていく。
- ⑤ 学習を通して身に付けた力や感じたことを振り返り、自覚し、自らの生き方や考え方を見つめ直す。

## 学習プログラムの主な内容

## 1. 各学級で共通に取り組む内容

## ①学級ごとに学習材を選定する

総合的な学習の時間を通して、どのような自分・学級を目指すのか、またそのためにどのような総合にしていきたいかを話し合い、その思い・願いを視点・条件として、学習材を選定し、その学習材との関わりを通して実現したい目的を整理する。

## ②学習活動の見通しをもつ

①で設定した目的の達成のために、どのような活動を行えばよいのか、経験を振り返ったり、試しの体験等を通して計画を立てたり、当面の課題を設定したりする。

## ③探究的に追究する

②で設定した計画や課題に沿って学習活動に取り組み、その進捗状況や課題に対する考察を行い、①で設定した目的と照らし合わせながら探究的に追究し続ける。

## ④必要感をもって人と関わる。

探究的な追究の過程で課題を解決するために、必要感をもって人と関わり、知識や技術を学んだり、進捗状況を発表・報告して意見をもらったりする。

## ⑤学習活動を振り返る

課題に沿って学習活動の成果や問題点を整理し、結論を出したり、学習活動を通して身に付け力や新たに獲得したものの見方や考え方等の自己の変容に気付いたりする。

## 2. 各学級の活動内容

- 3年1組…「昔について調べて、その魅力を他の学年や地域の人々に伝えたい」という思いの実現に向けて、歴史博物館のHさんや地域の人々と関わりながら展示館やふれあい館の魅力を発信する。
- 3年2組…「掃部山公園の植物の魅力を多くの人に知ってもらいたい」という思いをもち、その実現に向けて掃部山公園の自然環境や四季折々の魅力を調べ伝える。
- 4年1組…「自分たちが育てた野菜で作ったジャムを食べて喜んでほしい」という思いから、野菜を栽培し、野菜ジャムを作る。
- 4年2組…「間伐材を活用したものをつくり、木の魅力を伝えたい」という思いの実現に向けて、間伐材を加工して生活を豊かにするものづくりをする。
- 5年1組…「パネルシアターを楽しみ、まちの人たちにも楽しんでもらいたい」という思いの実現に向けて、パネルシアターに造詣の深いSさんや地域の人々と関わりながらまちのよさを紹介する話を作り、それを演じて楽しんでもらう。
- 5年2組…「多くの人に戸部のまちのよさを知ってもらいたい」という思いの実現に向けて、戸部のまちの特徴を地域PR動画で発信する。
- 6年1組…「地域のご高齢の方々を健康にしたい」という思いの実現に向けて、オリジナルのニュースポーツを考案する
- 6年2組…「いざという時（＝大きな震災時）に地域の役に立ちたい」という思いの実現に向けて、地域の防災担当の方と関わり、震災時に地域のために自分たちにできることについて考え、発信する。

### 学習プログラムの成果の概要

- 一年間の総合的な学習の時間を通して達成したい目的を明らかにすることで、常にそこに立ち戻りながら課題を設定し、その課題に沿って情報収集、整理・分析を行い、次の課題を見出していくような探究的な学習活動が展開された。
- 外部の人と関わる体験的な情報収集に、目的や課題に沿って子どもたち自身が必要感をもって取り組むことで、多くの子どもが「戸部のまちや学校、関わってくれた人々の魅力やよさに気付くことができている」と感じるようになっていた。
- 「地域の方々と関わりをもって、課題意識を通して仲間と創り上げていく活動は、改めて、子ども達にとってとても有意義で、成長につながる活動だなと感じました。」等、保護者から肯定的な意見をもらうことができた。子どもたちが学校外の機関や人との関わりを通して、充実した学習活動を展開していること、またそれが子どもの力になっていることを、保護者や地域の方にも理解してもらい、さらに充実した学習活動を展開していくために支援していただくことができた。



実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等

1. 実践校について

実践校名	よこはましりつ おおおかしょうがっこう 横浜市立大岡小学校		
	学科名	生徒数	学級数
		590	21

2. 実践研究の対象

全校で取り組んだ

3. 実践研究の実施経過

平成 29 年度 4～7 月

- ・地域の諸課題と向き合えるような学習材の設定
- ・目の前の児童の発達段階に応じた課題への気付き

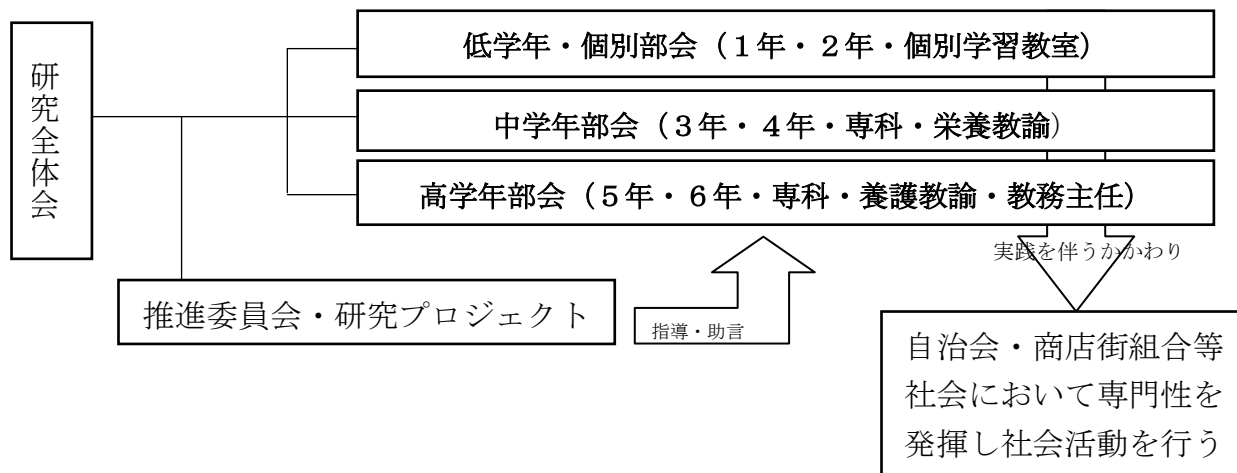
9～12 月

- ・諸課題に向かい合い三つの気付きを生み出す子どもの姿の実現
  - ①実社会との関わりから願いを生み出す
  - ②実社会で生きる新たな考えや気付きを生み出す
  - ③実社会で生きる仲間との協働を生み出す

1～3 月

- ・取組の継続
- ・自己の変容・成長の発信、学習のまとめ

4. 実践研究の実施体制



## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：横浜市立大岡小学校

**概要**

- 思いや願いに基づき、子ども自らが問題を解決してゆく活動を通して、実生活・実社会を生きる力「求め続ける力」「創り上げる力」「共に生きる力」を育む学習プログラムを開発する。

**学習プログラムの目標**

- 自ら学びを求め、創る子ども

地域の「ひと」「もの」「こと」とのかかわりを深め、地域への愛着を深めたり、地域に生きるよさを実感したりする子どもの姿を目指す。特に、生活科・総合的な学習の時間を含めた単元づくりにおいて、「環境問題への関心」「福祉的な視点をもった地域との関わり」「安全な地域生活」「地域に根差す伝統文化への関心」といった価値に向けて、主体的に学びを創造してゆく力を育てる。

- 生き方を豊かにする子ども

上記のような価値ある内容には、その事柄に真摯に取り組まれている「人」が存在するとともに、多くの「問題」を内包している。これらに直面し、自らかかわりを更新していき、地域と影響を与え合う子どもの姿を目指していく。

**学習プログラムの内容**

全校で取り組んだ実践研究の中から、3つの活動を取り上げ、「生み出す姿」を観点に紹介する。

- ① **2年2組 「1年2組わくドキ探検隊」「1年2組通学路探検隊」から**（第2学年）  
学校探検と通学路探検を中心に活動をした。低学年期の子どもたちにとっての「実社会」を最も身近な社会である「学校」や「近隣地域」と捉え、そこにある「ひと」「もの」「こと」との関わりを実現できるようにした。
- ② **3年2組 「ニコニコ大好き紙芝居大作戦」から**（第3学年）  
実際に近隣の図書館や地域で紙芝居作りや公演に取り組んでいる専門家と関わりながら、紙芝居を作り、地域で演じることを通して、実社会との関わりながら成長する子どもたちを目指した。
- ③ **6年3組 「地域とつながろう はちブンブンプロジェクト」から**（第6学年）  
学校での屋上養蜂に取り組んだ。ミツバチの飼育や、ハチミツを得ることを通して、地域の環境の問題点や特長を探った。またミツバチの面白さや蜂蜜のおいしさを伝えるイベントを開き、地域の方々に地域環境に目を向けてもらったり、地域の方同士が集ったりできる場を、地域に提供することを目指した。

**実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等**

**1. 実践校について**

実践校名	よこはましりつひえしょうがっこう 横浜市立日枝小学校		
学科名	児童数	学級数	
	650	24	

**2. 実践研究の対象**

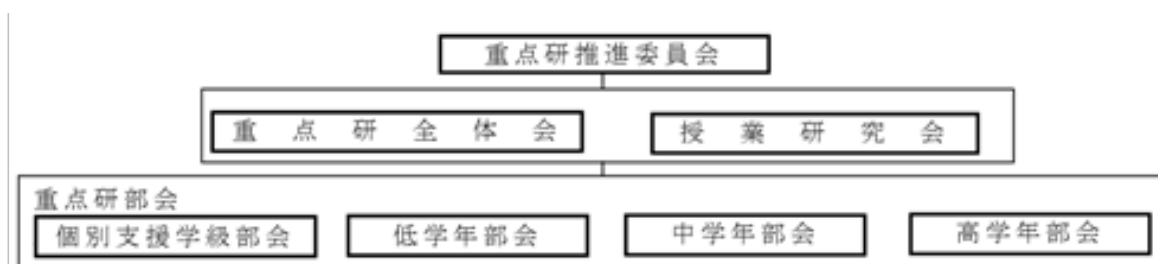
本校は、長年にわたり生活科及び総合的な学習の時間の研究に取り組んでいる。実社会との接点を重視した実践については、全てのクラスでそれぞれ異なる実践を行った。

**3. 実践研究の実施経過**

本年度の実践研究も各クラスで子どもたちと学習課題を作り上げながら、学習活動を行った。それぞれのクラスの活動は、①地域に密着した商店等、②大きな企業等、③公的な機関等の3つに分類することができる。プログラムは、どの実践も年間を通じて取り組む中で、児童の見方・考え方の広がり・深まりや表現力の向上が見られた。本年度行った各クラスの取組は平成30年2月17日(土)に「日枝っ子まつり」の中で企業の方、地域の方、あるいは保護者等に対して発表を行った。

**4. 実践研究の実施体制**

生活科・総合的な学習の時間を中心に実践研究を行うため、実施体制は本校の重点研究である生活科・総合的な学習の時間の研究組織と重ね合わせて行った。部会は、個別支援学級、低学年、中学年、高学年の4部会(専科教諭を含む)で組織した。研究内容としては、指導方法の検討や実社会とのつながり、あるいは単元構想などを検討した。



## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：横浜市立日枝小学校

**概要**

- 「地域や企業等との協働学習」および「体験活動の重視」をテーマに、地元地域の学習材等に出会い、何度も現地へ出向き、繰り返し体験を行って地域人材と関わることを通して、主体的に学び、実生活に活用する力を育むプログラムを開発する。

**学習プログラムの目標**

- 自分たちが住むまちをじっくり見つめることで、認識していなかった新たなまち等の価値に気付く。
- まち等を歩き、まちの人と関わることで、まちに息づく空気を感じる資質を育む。
- まち等の人と出会うことで、人の思い・願いや、行動の基になっている原動力に気付き、見方・考え方を広げる。
- まち等の特色を理解することで、まちの一員としてまちづくりに参画しようとする姿勢を育む。
- 集団で一つの目標に向かって取り組む活動を通して、崇高な目標をもったり、折合を付けたりするスキルを育てる。

**学習プログラムの主な内容**

生活科および総合的な学習の時間に学校裁量の時間を加えて単元化して「総合活動」を中心に、その年度に構成される学級集団の特性・実態、学級担任の見通し、適時性、社会のニーズなどを加味して開発される。今年度の一例としては、M製麺との協働活動（個別支援級）、子ども110番の家との交流（2年）、地域コミュニティとの交流（2年）、地域商店（パン屋）との協働（3年）、市電の探求（3年）、地元和紙の探究（3年）、自然復活プロジェクト（4年）、地元の川にかかる橋の探求（4年）、日枝に伝わるお囃子（5年）、地元商店街の活性化（5年）、町のイメージアップ活動（5年）、つながり清掃ウォーク（6年）、まちと未来と大岡川（6年）、花こんにやくでまちをつなぐ活動（6年）などが挙げられる。地域と密着する学習材を探し、学級単位で単元を創造した。学習プログラムの主な内容は次の通りである。

- ① 外部講師による話  
横浜市南区役所の方や土木事務所の方等から話を伺い、多文化共生、中心市街地活性化、環境問題、コミュニティなど地域の課題についての話を聞く。
- ② フィールドワーク  
グループごとに扱う課題（研究テーマ）を設定し、フィールドワークを行う。
- ③ グループディスカッション  
グループごとに課題解決について話し合う。
- ④ 発表活動  
グループごとに提言等をまとめ、発表を行う。（日枝っ子まつり）

## ⑤ 課題解決に向けた活動

自ら考えた課題解決に向けた活動を課外活動として行う。（④の発表内容を踏まえた活動を企画し、地域のイベント等で実践する）

### 学習プログラムの成果の概要

- M製麺の方に教えていただきながら、お客さんを大切に思う気持ちに気づき、自分の姿や夢に希望を持つことができた。
- 町の人などど繰り返しコミュニケーションをとることによって、自分たちの生活を支えてくださっている人々の存在に気づいたり、日枝のまちに愛着をもったりすることができた。
- まちの人と交流する経験を通して、人とかかわることの楽しさを実感するとともに、イベント等の実施により達成感や自己有用感を味わった。
- 働く人の思いに繰り返し触れる活動を通して、お店とまちの繋がりを感じたりすることで、まちに愛着を持つとともに、よりよくしていこうと工夫する態度が育った。
- 市電が走っていたことに興味をもち、探求することを通して、人々のくらしやまちが変化してきた様子をつかむとともに、新しい発見や交流の中から、日枝のまちをより好きになることができた。
- 職人さんとともに和紙をつくる活動を通して、ものをつくるには手間暇がかかることやつくったものに対する愛着や思いをもつことができた。
- 生き物が暮らせる環境づくりを通して、生き物の大切さや人と生き物の繋がりを実感した。また、専門家の生き方を知り、生き物と共生することの難しさや楽しさを味わった。
- 橋の不思議を解決しようとする学習を通して、橋だけでなく川やまちのつくり学びが広がった。また、まちを盛り上げようとする人々との交流を通してまちを大切に思う気持ちが強まった。
- お囃子が演奏される日枝のまちのおまつりやお囃子という伝統文化を大切に思う日枝のまちの人への繋がりを深めるとともに、まちへの愛着を深めることができた。また、伝統文化を守るために自分でできることはないかと考えを深めた。
- まちを活性化するために努力している方との関わりを通して、まちの良さや課題に気づき、まちに貢献しようとする取り組み態度を培うことができた。
- まちにある落書きから南区役所、鉄道会社等の様々な関係機関との関わりを通して、まちの人々の思いに気づくとともに進んでまちづくりにかかわることができた。
- まちの汚れを改善していこうという活動を通して、まちの環境改善を図ることは、大変なことであるが、社会参画の点でも大切なことであることがわかった。まちをきれいにしていく活動を通して、喜びや自己有用感を高めることができた。
- 川の調査から、川には人々をつなぐ大切な役割や人々の思いを実感することができた。また、未来に向けて自分たちができることを考えることができた。
- 南区発祥のこんにやくを広める活動を通して、製造・販売にかかわっている人の思いや願いに触れるとともに、日枝のまちへの愛着を深めることができた。